様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化		
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信		
主な取組	芸術文化国際交流（書道） （グローバル・リーダー育成海外短期研修事業）	実施計画記載頁	56
対応する主な課題	○文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。		

1　取組の概要（Plan）

取組内容	本県の高校生と台湾の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	10人 派遣人数	20人 →	→	→	→	→	県
	高校生を台湾へ派遣し、文化交流を実施						
担当部課	教育庁文化財課						

2　取組の状況（Do）

（１）取組の推進状況　　（単位：千円）

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム（書道）	3,900	3,900	書道分野で活躍する高校生を台湾へ派遣し、文化交流を実施した。派遣人数について、計画値20人に対し、実績値20人となった。 台湾では、現地の高校に相当する、台北市立第一女子高級中学、師範大附属高級中学と有意義な交流を行った。また、淡江大学中国語文学科にて張丙高教授からデジタル書法の指導を受けた。	一括交付金（ソフト）

活動指標名	計画値	実績値
派遣人数 （国際交流事業への派遣者数）	20人 （28年）	20人 （28年）

推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果
順調	高校生の派遣人員をH28も20名で実施した。 台湾での現地交流で、基礎基本の大切さを実感するとともに、書の文化にも違いがあることに刺激を受け、書道に対する理解がより深まっていた。 外国との文化の違いやコミュニケーションをとるには英語力が必須であるということを肌で感じ、これから英語を学ぼうとする姿勢がみられた。 また、実際に見聞きすることで相互理解が進み、国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。 さらに、事後研修を合同成果報告会という形で、実施することで他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。

様式1（主な取組）

（２） 今年度の活動計画

（単位：千円）

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム（書道）	3,596	書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し文化交流を実施する。	一括交付金（ソフト）

（３） これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①メンバーも変わることが多いので、昨年度の実施を検証し、課題点を洗い出したうえで、話合いの場を設定し、実施に向けた計画をたてる。 ②うがいや手洗いを徹底するとともに、持病のある生徒は担当の医者に看てもらったうえで薬を処方してもらうなど、万全を期して本研修を迎えるようにする。 ③平成27年度の反省を活かして、事前調整のときは、綿密に行程等を検証する。	①2次選考会の後に各部門で事前研修、本研修の内容など、昨年度の課題について協議した。1月には4部門の専門委員長を集め、昨年度と今年度の課題点を踏まえ、次年度に向けての話し合いを実施した。またメールにて随時各部門の専門委員長と次年度の準備を進めている。 ②3部門では、万全を期して本研修を実施できたが、1部門はインフルエンザ等体調不良者が数名、本研修中に発症した。時期の見直しも必要と考える。 ③反省を活かし、事前調整で綿密な行程の見直しができ、本研修はスムーズに実施できた。

（４） 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
文化交流を目的に海外へ派遣した生徒数（累計）	10人（23年度）	391人（28年度）	350人	381人	―
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
―	―	―	―	―	―

状況説明	
	27年度に引き続き、書道分野20名を台湾へ派遣した。音楽、美術・工芸、郷土芸能分野60名を含めると、平成28年度は80名を派遣し、合計で391名となりH28の目標を達成することができた。 派遣された高校生は、貴重な国際交流を体験したことで、異文化に対する理解を深め、日本や郷土の良さを再認識するとともに、少なからず海外（外国）への関心が高まった。また、書道に対する考え方や取り組みに大きな影響を受けた。 今後も、本事業の取組を継続していく。

3 取組の検証（Check）

（１） 推進上の留意点（内部要因、外部環境の変化）

○内部要因
・当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟及び専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。
・交流の際に必要となる語学力が十分でない。

○外部環境の変化
・現地での移動の時間帯、手段、天候により所要時間に若干変動がある。

（２） 改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）

・本研修をより深めるために、事前研修の内容の吟味が必要である。
・交通状況等により研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。

4 取組の改善案（Action）

・高文連と専門部、旅行社との密に連携を図る。
・事前研修での語学研修を今年度の2～3時間実施から各部門とも7時間確保し、会話の充実を図る。また、現地学習、郷土学習も各4時間確保し、研修地と地元沖縄の歴史・文化の学習の充実を図る。
・交通状況や生徒の体調配慮のため、ゆとりある日程を検討する。

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	
施策	①国内外における文化交流の推進と発信力の強化		
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信		
主な取組	芸術文化国際交流 （グローバル・リーダー育成海外短期研修事業）	実施計画記載頁	56
対応する主な課題	○文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。		

1　取組の概要（Plan）

取組内容	本県の高校生をシンガポール等へ派遣し、諸外国の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	60人 派遣数	→	→	→	→	→	県
	高校生をシンガポール等へ派遣し、文化交流を実施						
担当部課	教育庁文化財課						

2　取組の状況（Do）

（１）取組の推進状況　　（単位：千円）

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム	24,383	24,383	「音楽」「美術・工芸」「郷土芸能」の芸術分野で活躍する高校生をシンガポール及びオーストリアへ派遣し文化交流を実施した。 シンガポールでは郷土芸能部門が、国立ミレニア・インスティテュート校と交流した。 オーストリアでは音楽部門が、ウィーン国際音楽セミナーで個人レッスンを受講し、美術・工芸部門が、造形アカデミー卒業生から絵画レッスンを受けたり、合同でギムナジウム・ヘーゲルガッセ校と交流した。	一括交付金 （ソフト）

活動指標名	計画値	実績値
派遣人数 （高校生の短期研修）	60人 （28年）	60人 （28年）

推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果
順調	音楽、美術・工芸、郷土芸能の各分野について、総勢60人を派遣することができた。参加生徒は、外国でのコミュニケーションのとり方や文化の違いを肌で感じ、相互理解が進んだ。 1部門はインフルエンザ等体調不良者が数名、本研修中に発症したが、大きな事故やけがもなく、派遣生徒が現地の学校との交流やレッスンを受講できた。

様式1（主な取組）

（２） 今年度の活動計画

（単位：千円）

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム	24,804	「音楽」、「美術・工芸」、「郷土芸能」の芸術分野で活躍する高校生をそれぞれドイツ、台湾、アメリカ(ハワイ）へ派遣し、文化交流を実施する予定。	一括交付金（ソフト）

（３） これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①体調を崩す生徒がいないように、うがい・手洗いの徹底や、事前にインフルエンザ注射を打つように指導を行う。同時に、マスクの着用を徹底する。 ②派遣先国について、安全性及び先進性を考慮し、郷土芸能分野ではシンガポール以外の国についても検討する。 ③美術・工芸、音楽分野では、現地交流校や実技体験の受け入れが困難なため、オーストリア以外の国についても検討するが、外交情勢を見極め、安全性については常に検証を行う。	①生徒への体調管理の声掛けと事前調整で行程を検証し、うがい・手洗いの徹底するとともに、ゆとりを持たせた日程にした。 ②安全性、先進性、郷土芸能分野の特性を考慮し、次年度はアメリカ（ハワイ）での派遣を実施予定。 ③音楽分野では、オーストリアと同程度の研修効果が期待できるドイツ研修、美術・工芸分野は、台湾研修を予定しているが、国際情勢による安全性に様子をみながら実施予定。

（４） 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
文化交流を目的に海外へ派遣した生徒数（累計）	10人（23年度）	391人（28年度）	350人	381人	―
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
―	―	―	―	―	―

状況説明	
	27年度に引き続き、音楽、美術・工芸、郷土芸能3分野60名の派遣を計画した。現状値は、27年度までの累計311人に平成28年度の80人（書道分野20人を含む）を加え、391人となり、H28目標値を達成できた。 派遣された高校生は、この貴重な国際文化交流をとおして、異文化に対する理解を深め、日本や郷土の良さを再認識するとともに、海外（外国）への関心が一層高まった。 今後も、本事業の取組を継続していく。

３ 取組の検証（Check）

（１） 推進上の留意点 （内部要因、外部環境の変化）

<u>○内部要因</u>

・交流の際に必要となる語学力が十分でない。
・本研修先は環境が変わるので、インフルエンザや風邪などの病気をすることがないように事前の注意が必要である。
・生徒間の人間関係の構築や実技披露練習にかける時間配分が多くならないよう事前研修の内容を充実させる必要がある。

<u>○外部環境の変化</u>
・音楽の派遣先であるオーストリアはヨーロッパの中では比較的安全だと言われているが、今後も社会情勢に十分注意し、受け入れ先国の情勢を注視する必要がある。
・外国内の移動距離が長くなるため、生徒に体力的な負担がかかる。
・オーストリアは国の規模が小さいこともあるが学校数が少ないため、交流を受け入れてくれる高校を探すのが困難である。

（２）改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）

・体調を崩す生徒がいないように、マスクの着用等、指導を徹底する。
・体調に無理が出ないように、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。
・県議会の時期、台風が襲来しやすい時期、インフルエンザ流行時期や学校行事の時期等を考えて、本研修の日程を組む必要がある。
・実技の披露だけにとどまらないよう、現地高校生とより深いコミュニケーションが取れるように、引き続き交流先の検討を行う。
・音楽分野の派遣先をオーストリアから①近代楽器の指導者からレッスンを受けられる、②日本の高校に相当する学校との交流が実施しやすい、③県立芸大と姉妹提携大がある国、等の条件を満たしている国を検討する。

４　取組の改善案（Action）

・最初の事前研修で4部門合同の宿泊研修を計画し、より一層の事前研修の充実を図る。
・語学研修を今年度の２～３時間実施から各部門とも7時間確保し、会話の充実を図る。
・現地学習、郷土学習も各4時間確保し、研修地と地元沖縄の歴史・文化の学習の充実を図る。
・本研修を北半球では気候のよい10～11月に設定し、充実した研修日程と体調不良者対策等を図る。
・音楽分野はオーストリアからドイツに変更することで、古典楽器指導者から現代楽器指導者からのレッスンへの改善を図り、また音楽の研修地の充実（世界３大Bといわれるベートーベン、バッハ、ブラームス）を図る。

様式1（主な取組）

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	
施策	①国内外における文化交流の推進と発進力の強化		
(施策の小項目)	○沖縄文化を軸とした世界との交流・発信		
主な取組	みんなの文化財図鑑刊行事業	実施計画記載頁	57
対応する主な課題	○沖縄県は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発進力の強化が課題である。		

1　取組の概要（Plan）

取組内容	沖縄の歴史・文化への普及・啓発を行うため、国指定文化財158件、県指定文化財269件、市町村指定文化財963件を紹介する書籍、5冊を刊行する。刊行後は、県内の学校及び公立図書館を中心に配布する。さらに、ハンドブック版については、観光客へのサービスとして世界遺産などの文化財と関連する施設に配布し、目に触れるようにする。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
			県内指定文化財紹介書籍の刊行（30年までに6冊）			→	
担当部課	教育庁文化財課						

2　取組の状況（Do）

（１）取組の推進状況　　（単位：千円）

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
みんなの文化財図鑑刊行事業	12,640	9,469	国指定文化財及び県指定文化財のうち、153件の文化財の写真撮影を行った。また、詳細な情報が少ない文化財についての情報収集を行った。	一括交付金（ソフト）

活動指標名	計画値	実績値
―	―	―

推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果
順調	平成28年度は、27年度に収集した指定文化財の情報と策定した編集・刊行計画に基づいて、沖縄県に所在する153件の文化財の写真撮影を行った。詳細な情報が少ない文化財についての情報収集も行った。

（２）今年度の活動計画　　（単位：千円）

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
みんなの文化財図鑑刊行事業	19,223	・平成29年度は、28年度までに収集した指定文化財の情報と、策定した編集・刊行計画に基づいて、写真撮影と原稿執筆を行う。ただし、情報量の少ない文化財については引き続き、情報収集を行う。 ・編集会議を各週で行い、各分野の進捗状況等を確認する。 ・『史跡・名勝』編を刊行する。	一括交付金（ソフト）

様式1（主な取組）

（３） これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①普及書の内容は、専門用語を使用せずに文体を平易にするとともに、文化財の最新の状況を写真で掲載するなど、見て楽しめるレイアウト、デザインとする。 ②義務教育を終了した中学生が理解できる内容にまとめ、文化財普及書の分かりづらさを改善する。 ③基本解説、専門性の高いコラム、視覚的に紹介するトピックの三重構成とし、より知識のある読者でも楽しめるよう複数の内容で構成する。内容は、中学生が楽しめるとする。 ④写真撮影は、事前調査や撮影工程、文化財の取り扱い等を綿密な計画を立てて効率化を図る。	①専門用語使用せず、文化財の最新の状況を写真で掲載するなど、見て楽しめるレイアウト、デザインとする検討を行った。 ②③中学生が理解できる表現を検討しつつ、一般の方も文化財の重要性等について考えることができる内容や構成を検討した。 ④効率的な写真撮影を進め、248点の撮影ができた。

（４） 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
―	―	―	―	―	―
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
県・国指定文化財・天然記念物件数	423件 （26年度）	426件 （27年度）	427件 （28年度）	→	―
状況説明	文化財の指定件数はゆるやかに増加しているが、指定後の文化財の保存・活用が活発に行われているとは言いがたい状況にある。普及書によって文化財に関する情報を発信し、県民の文化財に対する意識を高め、その保存・活用を活発にしていく必要がある。				

３ 取組の検証（Check）

（１） 推進上の留意点 （内部要因、 外部環境の変化）

<u>○内部要因</u>
・これまでも文化財の普及書は刊行されているが、説明が専門的であることから内容が分かりづらい。

<u>○外部環境の変化</u>
・指定された文化財の中には、数百点の資料を有する文化財もあり、各文化財ごとに状況が異なるため、写真撮影や説明文の内容など、工夫を要する必要がある。
・文化財の保護は市町村単位で行っている。

（２） 改善余地の検証 （取組の効果の更なる向上の視点）

・写真撮影については、事前調査を綿密に行い、効率化を図る必要がある。

・市町村教育委員会の協力を得る必要がある。

４ 取組の改善案（Action）

・児童生徒が理解できる表現を検討しつつ、より知識のある読者でも楽しめる内容・構成を検討する。

・文化財行政担当者研修などをとおして、市町村への事業説明を丁寧行い、事業への理解と協力が得られるようにする。

・刊行が予定されている『史跡・名勝』編についての周知を図る。